# 令和4年度 学校教育自己診断について

○令和4年度における質問項目の選定 生徒・保護者向けに以下の質問内容を加えた。 「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」

### ○アンケートの回答形式

Google フォームで実施し、選択肢は以下の4種類とした。

A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない 生徒・教職員はすべての回答を必答にし、保護者は判断に迷う項目については未回答も可能とした。

### ○アンケートの実施期間

保護者・教職員:12月1日~12月16日(12月中旬に再度案内し、28日まで回答可能とした。) 生徒:11月下旬~12月中旬のHR

#### ○回答数

保護者:468 (全体の51%)

生徒:820 (全体の89%)

教員:42 (全体の71%)

(参考) 昨年度 保護者:57%、生徒:93%、教員:64%

## ○比較分析の方法

A・B を合計した数/回答数・・・・「肯定率」とする。 前年度のデータと比較することで、学校運営に対する評価を分析検討する。

### (1)保護者アンケートについて

肯定率の平均 85.0(前年比 4.3%増)

筆答 1年 21 2年 16 3年 7 計 44 件

肯定率平均は前年度比 4.3%の増加であり、全体的に肯定率が高かった。特に、「枚方高校は保護者や地域の人々に対して授業参観の機会を設けている。」については、前年度比 30.8%の増加となった。コロナ禍のため、実施できていなかった授業参観を再開したためと考えられる。

「枚方高校は雰囲気が良く生徒が生き生きしている。」「枚方高校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。」「枚方高校では子どもに関する個人情報が守られている。」の3項目においては肯定率が95%以上であった。

一方で、アンケートの回答率に関しては、51%と低く、昨年度と比しても 6%の減少となった。 来年度以降周知の方法等を工夫して、高めていくことが必要である。

## (2)生徒アンケートについて

肯定率の平均 84.2%(前年比 1.1%減)

筆答回答 1年 33 2年 19 3年 17 計 69 件

大きな減少が見られたのは、「学校の生活指導は納得できる。」71.5%(6.8%減)、「文化祭・体育祭・修学旅行は意義深いものになるよう工夫されている。」87.9%(6.4%減)であった。生徒指導に関する世間的な意識の変化や、コロナ禍で行事が縮小されていることの影響があると考えられる。

一方で「人権について学ぶ機会がある。」「将来の進路や生き方について考える機会がある。」 の 2 項目においては肯定率が 95%以上、肯定率が最も増加したものは、「視聴覚教材やコンピュータを使用する機会がよくある。」86.5%(4.9%増)であった。

肯定率の高いものについては維持し、低いものについては向上に努めたい。

# (3)教職員アンケートについて

肯定率の平均 79.8%(前年比 5.8%減) 筆答 5件

アンケート総数が少なく、一人当たり 2.4%の変化があるため、例年増減幅が大きくなる。(前年度は肯定率 12%増の 85.6%であった。)

肯定率が高かったものは、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている。」「教員は授業の 指導法について、工夫・改善に努めている。」「コンピュータやICT機器が授業で活用されている。」 の3項目で、いずれも97.6%であった。

一方、肯定率が 50%を下回ったものは、「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、話し合う機会がある。」「学校として、読書指導に取り組んでいる。」「奉仕などの体験学習やボランティア活動が活発に行われている。」の 3 項目であり、今後検討すべき課題である。

#### (4)アンケート全般について

Google フォームでアンケートを実施したことにより集計の効率化が図れた一方、個人が特定されない形で集計しているため、未提出者に回答を催促することが難しく、全体の回答率は減少した。

アンケートの結果については、各分掌で話し合う機会を設けている。今後は分掌を超えて課題 について話し合う機会が必要になってくると考えられる。特に、生徒・教員の双方の肯定率が低い テーマについては、改善に向けての取り組みを早急に進めていきたい。

以上